

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700509		
法人名	社会福祉法人 恵和会		
事業所名	グループホーム 花の木		
所在地	岐阜県恵那市大井町 2709—72		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2171700509-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>恵那峡の自然豊かな環境の中、四季を感じながら地域の方々に支えられ穏やかで安らぎのある暮らしに取り組んでいます。利用者の方の意向や要望を職員が情報収集して、希望の外出を支援したり、地域の催しに出掛け交流を行う等、活動を行っている。個々を尊重し予防と残存機能を活かす取り組みを行い楽しみを取り入れながら自立支援に繋げています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、まもなく開設11年目を迎える。昨年度は、外部評価実施回数に関する適用を受けることができた。日々、地域との良好な関係づくりを行ない、幼稚園児から小、中、高校生まで、交流の輪を広げている。今年度は、福祉学習対象校の小学4年生の受け入れや、同校へ出向き、認知症についての講座を開催している。利用者の外出支援では、個別の外出を充実させ、遠隔地へは、法人のマイクロバスを利用し、気分転換や五感を刺激する機会を作り、利用者の楽しみにつなげている。職員は、常に、利用者の言動の要因を考える介護に努め、専門性の向上を図りながら、利用者の自立を支え、安らぎのある暮らしを支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を基にホームの運営方針を掲示し職員会議で共有し実践に繋げるよう努めている。	理念は、ホーム内の目立つ位置に掲示をし、職員会議や人事考課の際に、その意義を確認し合い、共有をしている。利用者の自立を支え、思いに寄り添い、穏やかで安らぎのある暮らしができるよう、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住職による法話、書道、パッチワーク、パン教室等地域住民との交流に取り組んでいます。自治会の神輿の来所、自治会との消防訓練、夏祭り等一緒に参加し交流している。	自治会と連携し、地域行事や防災訓練で協力関係を築いている。ホーム主催の夕涼会には、家族や住民を招き、地域の祭りには、神輿が回ってくるなど、双方向の交流や、ボランティアによるパン作り教室、様々な趣味の教室で地域住民との交流がある。	管理者は、家族を交えて、地域の認知症カフェの参加を検討しており、その実現に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	恵那RUN伴2015に利用者と職員が参加し、認知症になっても自分らしく暮らせるまちえーなあを通じて、地域の方に認知症の理解や支援を呼びかけ交流によって深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回開催し、行政、地域関係者、利用者、家族が出席し、ホームの理解や意見の収集に努めている。	会議は、隔月に開催し、利用者の介護度や入退居、行事内容等を報告し、意見を交わしている。終末期の対応や、事故につながるヒアリの事例と予防を話し合い、運営やサービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の毎月1回の訪問により、意見交換を行っている。行政との連携、家族からの問い合わせ、申請書類等の代行や相談等協力関係を深めている。	市の介護相談員が毎月訪れ、利用者の声を聴いている。行政担当者には、成年後見制度の手続きや介護保険申請代行、事故報告、家族からの問い合わせなど、困難事例を相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束行動制限についての取り扱い要綱に基づき、身体拘束廃止委員会を月1回開催し、職員会議を通じて正しく理解出来るよう取り組んでいる。	身体拘束行動制限取り扱い要項を定め、月1回の身体拘束廃止委員会を設けている。職員は、拘束の弊害を正しく認識し、拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者が外出しそうな時は、さりげなく付き添い、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所審査会等でケアマネージャーや包括支援センター職員より実態の説明を受け職員へ伝達し、虐待防止について連絡し、職員間での確認するよう努めている。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用者が利用していることから、制度の理解と活用できるよう後見センター職員と意見交換や相談を面会時行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設見学を依頼し、説明にて了解を得て契約している。また、契約時には再度書類を説明している。入居後の様子、状態の変化のある場合には家族へ説明をその都度行うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等の際、家族からの意見や要望を聞けるようにしている。意見箱の設置、法人全体で取り組んでいるアンケート集計を反映できるようにしている。	家族の訪問時や家族会の際に、意見や要望を聞いている。家族には、利用者の暮らしをスライドで見てもらい、信頼関係を築いている。年に1回、家族アンケートを取り、その結果を、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所会議、役付者・リーダー会議を行い議事録を閲覧できるようにしている。人事考課制度により管理者と主任は職員の意見を聞く時間を設けている。	職員の意見や提案を、会議や個人面談、人事考課の際に、話し合っている。糖尿病のある人の運動療法や食事制限の把握、事業所全体の感染症対策について話し合い、各会議の内容は議事録で残し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により年2回スタッフとの面接により希望や目標等相談しながら評価することで意欲向上に繋がるような環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての研修システムにより新入職員、中堅職員、役付研修等があり、居宅事業所での学習会の参加により、知識や技術を身につけていけるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟し、情報交換を行い、市内病院と包括支援センターの勉強会等を通じて交流を図り、サービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用中のサービス施設に訪問し、日頃の様子や困っていることを把握し関係を築くよう、事前にホームの見学をお願いしながら安心に繋がるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用までに何度か面談をしながらサービス内容・方向性を話し合いを行い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域の関係機関と連携をとりながら、今後についての適切なサービス利用が受けられるよう在宅サービスの説明等話をさせていただきながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事の準備や片付け、掃除や洗濯物たたみ、農作物作り、季節の飾りつけなど一緒に行いながら共に生活している関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に支えていくことが出来るよう情報交換や近況報告等を通じて話しやすい雰囲気作りを心掛け信頼関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や知人の訪問があり、家族の協力を得て馴染みの美容院や外泊・外出をし、地域行事への参加をし同じ地域住民との交流する場となるよう支援している。	親戚や知人の訪問があり、ホームの行事にも招いている。利用者は、地域の行事やパン教室で、馴染みの人と出会い、親しい人には、年賀状も書いている。家族の協力を得て、美容院に出かけたり、季節の花見にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を確認しながら、少人数での外出や貼り絵などの共同作品作り等行い、コミュニケーションが図れる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後先への関係は、利用者の状況や家族の状況を把握しながら関係を維持できるようにしている。病院への入院時もソーシャルワーカーや看護師、家族との連絡をとりながら対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の関わりの中から、聞き取った言葉や様子を介護記録やミーティング帳に記入し職員間で共有し意思の尊重に心がけている。確認が困難な利用者については家族や知人等から情報を受けるようにしている。	日常の関わりの中で、思いや暮らし方の希望を把握している。会話が困難な人は、表情や仕草を観察し、家族からも情報を得ている。一人ひとりの意思を尊重し、自分らしい生活ができるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接にて生活歴や病歴等把握できるよう、本人、家族、居宅担当介護支援員からの情報の確認に心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活環境について利用者、家族から確認し、申し送り、介護記録等を通じて個々の現状を観察し職員間で認識するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に、毎月モニタリングを行い看護師の意見を参考にしながら、本人や家族の意向を確認し介護計画を作成している。	担当職員とケアマネジャーを中心に、計画の原案を作成している。本人、家族と面談し、職員の気づきや看護師の意見を踏まえて、介護計画を作成している。利用者が自分でできることを、職員が支え、楽しく生活ができるよう計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の関わりの中から、聞き取った言葉や様子を介護記録やミーティング帳に記入し職員間で情報交換や検討を行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して、地域や法人の協力協力も得ながら行事の実施や外出に対応できるように心掛けている。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、住職、書道、パッチワーク、パン教室、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校と協力しながら地域資源の活用する取り組みを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前面接時入居後も主治医と受診支援の希望を確認、相談しながらかかりつけ医との連携を築くよう努めている。	かかりつけ医は、本人・家族が選択をしている。遠方の方は、協力医に変更し、通院の際は、家族、または職員が同行している。それぞれの主治医と連携を密に取り、急変時にも万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師を配置し、状態把握と対応を行い、職員の相談・指示に努めている。また、法人事業所内看護師の疾病別の学習会、医療相談にて個々の健康管理の支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の主治医からの説明には、家族の同意を得て一緒に確認しながら病状や今後について相談して対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針について、書面にて家族説明し同意を得ています。状態の変化に応じて適応施設、医療機関との連携を取り、家族と相談しながらより良い選択ができるよう支援に努めている。	重度化の指針があり、入居時に説明を行い、本人、家族の同意を得ている。終末期になる前に、状態の変化に応じて、家族と医師、関係者が話し合い、医療機関や他の介護施設等と連携をし、本人、家族が安心して移転できるよう、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で普通救命講習を受け、法人事業所内看護師による急変時の対応について勉強会参加、職員会議時にも確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導の下に昼夜想定で実施し、初期消火や地震対策について訓練と地域や事業の連絡網の確認を行っている。	災害訓練は、地震や昼夜を想定し、初期消火や通報、避難誘導など、必要な項目に沿って行っている。隣接の施設と連携し、実践力の強化に努めている。地域の協力者を連絡網に連ね、備蓄品も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切に、日々の生活の場面において言葉使い、プライバシーの対応に心掛け人生の先輩として意識するよう努めている。	利用者一人ひとりの思いを受け入れ、理解するよう努めている。人格を尊重し、言葉や語調に配慮しながら、利用者の誇りを損ねない対応を行い、プライバシーの確保を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から要望や希望外出・行事を把握し、主に誕生日昼食外出・行事では選択する場を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の過ごし方については、個々の生活リズムを大事にして対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪や美容院は利用者の希望に応じて馴染みの美容室か訪問美容を利用し、化粧品や身だしなみは自由に行えるよう化粧品等をそろえる等支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食物アレルギーは事前に確認し、嗜好調査を年2回行い希望の食事やおやつを把握し、郷土料理も取り入れるようにしている。嫌いな物については代替している。食事の準備や後片付けは職員と一緒にやっている。	食事は、嗜好や食物アレルギーに配慮をして提供している。準備や片付けは、できる人が関わり、職員も同じテーブルで、家庭的な食事を一緒に味わっている。食事中は、音楽が流れ、よもやま話しが弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を作成し、カロリーメニューを実施し栄養バランスできるよう努めています。食事量や水分量は毎食確認して状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の歯科検診・勉強会において、口腔ケアの必要性を理解し、毎食口腔ケアに努めている。		

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時に排泄チャートを使用して排泄間隔や排泄用品を検討し、個々の排泄リズムに応じてトイレでの排泄動作の維持と不快感の軽減に努めています。	個々の排泄リズムに合わせて、さりげない誘導でトイレへ促している。排泄用品は、一人ひとりの状態に合わせて選択し、不快感がないように配慮をしている。夜間は、コールボタンを利用することで、早めに察知して介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を把握しながら、食物繊維、乳製品、水分補給の取り組みや運動と必要に応じて服薬の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回を基本として、入浴状況に応じて回数や利用者に配慮して安全に入浴できるよう取り組んでいます。	入浴日は、ユニット間で調整をし、利用者の希望に柔軟に対応をしている。入浴拒否があれば、タイミングと言葉かけを工夫し、一人ひとりの習慣やこだわりを配慮しながら、楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムの中で安眠や休息の時間を見守り、電気アンカや電気毛布の使用、室内の温度調節について個々に対応するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を把握できるようにケース記録に閉じ、服薬後の状態を把握し医療職と連携を取りながら主治医に申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事や行事については、季節ごとに計画し一緒に準備等行っている。日常的には家事作業で掃除、ベットメイク、配膳、下膳、洗濯等について残存機能に応じて職員と一緒に行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺への散歩や喫茶店等個別に出掛け、ドライブでは季節の花を見に地元地域または県外へ行ったり、地域のイベントに参加したり他事業所への訪問等支援している。	日々、周辺を散歩をしている。ドライブを兼ね、個別の外出にも応じている。地域のイベントに出かけたり、同法人の他事業所との交流がある。今年度は、法人のマイクロバスで、遠方への外出を、数多く支援している。	

岐阜県 グループホーム花の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理し、外出時に持参して使用している。利用者個人での管理については事前に本人と家族の意向を確認して対応している。定期的に残高の確認をお願いし、収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状の作成を活動に取り入れ、家族や知人への手紙を希望に応じて送付し、電話の取次ぎについても要望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる物、馴染みの物により五感を活かせる居場所作り、食事の準備の様子、匂い、音を受けながら、季節感を感じられるよう努めている。	居間に、畳のコーナーがあり、大勢で囲めるコタツを設置している。台所は対面式であり、壁には、利用者の作品や笑顔の写真などが貼られ、生活感がある。園芸デザイン科の高校生と「園芸福祉作業」で、一緒に作った作品も飾っている。窓越しに、季節の移ろいを感じることができ、居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ルーム内でソファや椅子の配置を工夫し、利用者の馴染みの関係に配慮して思い思いに過ごせる場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に使い慣れた馴染みの物、生活用品を持ち込まれるよう家族と話し合っ、居室に置くようにし居心地良く過ごして頂ける様に努めている。	居室には、本人の趣味を活かした作品を飾っている。家族の写真、誕生祝いの色紙、手鏡、仏壇の持ち込みもある。馴染みのものは、利用者の使いやすい配置で、居心地のよい部屋づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造作りで床はバリアフリーになっていて、個々の身体状態に応じて必要な補助具を使用し、共用部での障害物や家具の位置には動線を考えて設置している。		